

課題

- 障害者サービスの未実施地域が多い。
- 公立図書館などの障害者サービスの充実が必要。
- 障害者サービスの未実施地域には、障害者サービスについての研修のノウハウが少ない。

事業のねらい

- ①全国の図書館の障害者サービスの底上げを図るため、都道府県立図書館職員を中心に、図書館の障害者サービスや研修のノウハウを習得してもらおう。
- ②全国の図書館職員に基本的な障害者サービスを知ってもらい、具体的なサービス進展に結び付ける。

図書館の障害者サービスの充実による、障害者を含む図書館利用に障害のある人々への情報提供の推進

実施内容

【研修事業】

①都道府県立・政令指定都市立図書館の職員を中心に、合わせて市町村立図書館職員を対象に、障害者サービスの基本から実務に活かせる具体的内容までの講義を行った。

【研修画像・資料の配布】

②次年度以降の研修に使用できるよう、研修映像・資料をDVDなどで都道府県立図書館、政令指定都市立図書館に配布。

①研修事業

障害者サービスの基本理念から、具体的なサービスの方法、事例をあげた講義の実施。

全日程参加者は、様々な地域の図書館が入ったグループに分かれて討議及び発表を実施。

障害者サービスの未実施地域が多い地方の図書館も参加しやすいよう、オンライン形式を中心に実施。

②研修画像・資料の配布

67館(都道府県立図書館47館、政令指定都市立図書館20館)に配布(令和3年3月3日発送)。

研修で使用した画像・資料のほか、受講生からの質問が多かった内容についての講義を追加。

配布の研修映像には、聴覚障害者も理解できるように字幕を用意。

研修資料には、視覚障害者等も理解できるよう図表・写真に説明を付けたテキストデータも用意。

成果

○障害者サービスについての理解の向上

受講生の質疑から、障害者サービスについてあまり知識やノウハウがない方も参加していることが伺えたが、チェックリストの結果より多くのかたが障害者サービスについての理解を深められたことが見て取れた。

アンケートからは、以下のような回答が多数寄せられ、今後のサービスの進展に結び付くであろうことが予想される。

- ・他館の状況を知ることができ、サービスの方法や課題、解決策などを教えていただいた。
- ・グループワークで、情報共有ができたことで自館のサービスに生かせることを多く学べた。
- ・県立図書館という立場から、市町村図書館への支援や役割分担など今まで見えていなかった課題を意識できるようになった。
- ・先進館の取り組みだけでなく、同じような規模・サービス内容の図書館での懸案について知ることができとても参考になった。

○講義映像や講義資料の配布

多くの受講生より講義映像及び講義資料を各図書館にて活用したい旨の発言もあり、今後配布した資料を生かしての障害者サービスの進展が期待される。

委託業務成果概要報告書 公共図書館で働く視覚障害職員の会（なごや会）

本研修は、2019年6月に施行された読書バリアフリー法の趣旨を踏まえ、公立図書館で働く視覚障害者が同じ障害のある利用者に対して読書支援を行ううえで必要となる技術を習得し、視覚障害者等の読書環境の改善をめざすことを目的として実施した。

具体的には公立図書館で働く視覚障害者、働くことを希望する視覚障害者、そして、現在、図書館に視覚障害者の採用を検討している自治体関係者等に対して、視覚障害者が公共図書館で働く意義や目的、視覚障害者等の読書環境に関わる法・制度等の基本等の講義を行うとともに、各種読書ツールの使用方の実技指導を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないことから、受講はオンライン参加のみとし、運営も株式会社ラビットの会議室を本部としてオンラインで実施することにした。不慣れなオンライン研修であったが、大きなアクシデントもなく、2日間の日程を終えることができた。

1. 事業名及び実施日等

事業名：読書バリアフリーに向けた図書館サービス研修ーピアサポートができる司書等育成研修会ー

実施日：令和3年1月25日（月）～26日（火）

場所：株式会社ラビット（〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-7 スカイパレス 402 会議室）

2. 参加者数及び参加者の内訳

①参加者数： 25日59人、26日43人（これに加えて、2日間の聴講16人）※申込者総数76人。

②参加者の内訳： 公共図書館員27人、点字図書館員20人、大学関係者10人（うち学生4人、うち視覚障害学生1人）自治体関係者他（図書館以外）19人

3. 受講者の満足度と習熟度 ※受講者の満足度と習熟度については、事後アンケートを実施し、それぞれ確認を行った。回答数55。

①受講者の満足度

●1日目満足度 4.3点／5点満点、●2日目満足度 4.4点／5点満点

②受講者の習熟度

習熟度については、事後アンケートで、特に参考になったものを理由と合わせて記入してもらった。代表的なコメントを、一部編集して以下に記す。

- ・図書館の障害者サービスを進めるうえで基本となる法律や制度を知ることができて有益であった。（多数）
- ・視覚障害者の読書支援のためのさまざまなツールを知ることができたとともに、こうしたツールを誰もが利用し、ユニバーサルな社会（誰でも当たり前文化を享受できる社会）の実現が重要なことがわかった。
- ・なごや会のこれまでの経緯や、現在図書館がおかれている状況を知ることができた。
- ・公共図書館で働く視覚障害当事者から話を聞いたことが参考になった。具体的に当事者が情報提供を行う図書館で働く意義を実感できた。
- ・当事者職員として、何が必要か、何をしなければならないのか、ピアサポートの立場で考えなければならないことを再認識した。
- ・図書館員の果たすピアサポーターとしての役割が明確になったとともに、視覚障害学生である私自身がその重要性を理解できたことがよかった。
- ・ピアサポートという言葉の意味と現実、それに課題等がパネリストの方々の話を通じて知ることができた。もともと当事者体験から公立図書館におけるピアサポートについて伺いたいという希望があったので、大変参考になった。
- ・iPhoneについて実技を交えての説明がよくわかった。視覚障害の特性に応じた例など、当事者ならではの指導法はわかりやすい。
- ・比較的新しく、まだ触れたことがない読書ツールを知ることができた。合成音声の音質など、利用者等からの問い合わせに対応する際の参考になる。
- ・PTR3(DAISY再生機)を操作しながらの講師の説明はとてもわかりやすかった。視覚障害者が機器を操作することの難しさや健常者の何気ない言葉が、障害者にはわかりにくいことも知った。見えるのが当たり前ではなく、見えない人を理解して、配慮ある読書支援を考えていきたいと思った。